

古事類苑

器用部二

飲食具二

合子
名釋

〔倭名類聚抄^{十六}漆器〕合子 唐式云、尙書局、漆器三年一換、供每節料朱合等、五年一換、今案朱合、俗所、謂朱漆合子也、

〔箋注倭名類聚抄^四漆器〕按、合子有蓋、故名合、猶謂香匳爲香合、蛤蜊亦以有蓋得蛤名、則知今俗所用

漆椀卽是、然今節會所用合子無蓋、爲撤食器、恐非古義、

〔伊呂波字類抄^{雜物}〕合子 カウシ

〔下學集^下器財〕合子 カウシ

〔貞丈雜記^七膳部〕一合子^{カウシ}とも合器^{ゴキ}とも云は椀の事也、身とふたを合する故の名也、合器を五器と

書てめしわん、汁椀平皿、つぼさら、こし高の五也と云説あり、あやまり也、

〔枕草子^十〕いみじくきたなき物

殿上のがうし。

〔枕草子春曙抄^十〕合子にや、引入合子など云也、五器也、

〔榮花物語^{二十七}衣珠〕御^二だう^一道^〇藤原には、かんの道の^〇嬉子の御ほうじ、九月^〇二年^〇萬壽廿一日に、あみだ

だうにてせさせ給、きこしめしけるごきを、ほとけにつくり、たてまつらせ給へるなりけり、

〔貞徳文集^下〕就其椀折敷二十人前、新用意仕置候、但椀者朽木五器、木具金薄押可然候哉、

〔空穂物語^{吹上之下}〕これはつくも所、さいく三十人ばかりゐて、ぢんすはう、えたん、らして、〇中ろ略

合子製作